

新総合計画策定に係る各界各層との意見交換概要

- 1 NPO団体
- 2 女性団体（江別市女性団体協議会）
- 3 高齢者世代（江別市高齢者クラブ連合会）
- 4 江別地区自治会連絡協議会
- 5 野幌地区自治会連絡協議会
- 6 大麻地区自治会連絡協議会
- 7 子育て団体（民間保育園）
- 8 障がい者（児）団体
- 9 子育て団体（江別私立幼稚園連合会）
- 10 子育て団体（江別市内小中学校PTA連合会）
- 11 子育て団体（えべつ保育園連合父母の会）
- 12 農業関係団体（農業委員）
- 13 農業関係団体（JA道央等）
- 14 経済団体（江別医師会）

《市長と若い世代の方々との意見交換》

- 1 市内中学生との意見交換（「えべつ未来中学生会議」）
- 2 市内高校生との意見交換（「えべつ未来高校生会議」）
- 3 市内大学生との意見交換（「えべつ未来大学生会議」）

NPO団体との意見交換概要

日 時：平成23年12月21日（水） 10：00～11：45

場 所：江別市民活動センター（江別市野幌町30番地の1）

出席者：江別市民活動センター、日本リサイクルネットワーク・えべつ、
在宅支援技術者連絡協議会、NPO法人えべつ協働ねっとわーく

1 江別市全体に関して

(1) 江別市のよいところ・強み

- ・ ゴミの資源化が進み、リサイクル率が高い。自治会の資源回収が普及している。
- ・ 自然環境が良い。みどりが多いし公園も多いので住みやすい。
- ・ 札幌市に近い。札幌から移住してきた方々によれば、札幌郊外に住むより江別市の方が住みやすいと言うので、広報するといいい。
- ・ 札幌在住の方が江別市に移住するというのは難しいように思われるが、札幌近郊に住みたいという方が札幌ではなく江別を選択するという余地はある。
- ・ 南幌や長沼の住民が医療機関利用のために江別に来ている。
- ・ 子育てしやすい。役所が近い。新しいことをやるのに規模的にやりやすいし、変えやすい大きさ（対札幌）。
- ・ 新篠津村では子どもに対する助成金を出しているというのがあり、若い世代が増えていらしい。新篠津村では、子育て・若い世代を取り込むのに熱心な自治体。
- ・ 札幌に比べると安全安心、新篠津村に比べると学校がきちんとそろっているというような部分に注目することが重要。
- ・ 大学が4つもある。10人に1人が学生という若い力がある。
- ・ 人口に対して市役所職員数が少ない。
- ・ おいしく安い野菜が多い。巨大市場（札幌市）からも近い。

(2) 江別市の課題、問題点・弱み

- ・ 子どもが安全に遊べる場所がある、働いている母親をフォローするということに対する行政の関わり方が非常に重要。
- ・ 高校進学については、進学校が札幌に劣る。札幌に行ってしまうと江別には戻ってこないし、受け皿もない。
- ・ 学生向きの店（飲み屋など）が少ない。「まちコン」（地域振興目的の大規模なコンパイベント）をやるような場所・店もない。
- ・ 市役所職員らが江別の街中で飲食しなくなった。
- ・ 4大学連携のコーディネーターがいらない。
- ・ 交通網が東西だけで南北がない。
- ・ 車を所有していない公共交通機関利用者には交通手段が限られている。

- ・ 高齢者は車での移動が難しいのに公共交通機関が充実していない（特に南方面）
 - ・ レンタサイクル、サイクルシェアリング、カーシェアリングの実施。カーシェアリングは難しい（経済面にメリットがない）場合があるが。
 - ・ 役所の中で情報共有ができていない。（何かにつけ一から話さなければならない）
 - ・ 役所内部の部署のキーマンが各課に1人程度しかいなくて、その人が異動するとわからなくなる。
 - ・ 財政健全化のため職員を削減して、そのしわ寄せがいまきている。
 - ・ 若い職員の意見を取り入れるような仕組み、チャレンジさせてあげるような仕組みが必要。
 - ・ 市民ニーズは多様化しており、いまの市役所の体制では対応は難しい。
 - ・ 市民同士や市民と行政との協働で対応していく必要がある。
 - ・ 江別で誇れる産業は農業しかない。農業を大事にする。（安全、安心、札幌が近い）
 - ・ 産直に行かなければ手に入らないものがある。産直を増やすなどで、農家が喜び、市民もおいしいものが食べられる。産直は買いにくい、売る場所がない。
 - ・ 強みを伸ばす、という方向性が必要。
 - ・ 大麻地区で動かない空き地が多いがこれはどうにかできないのか。
 - ・ まちづくり支援事業補助金をいろいろな活動に使うが、最近、補助金をもらうだけではなくPTAの仕組み（三角形）のように、行政と市民活動団体と市民の三角形を考えたとき、お金以外の部分で協働で一緒に作り上げていくためのコミュニケーション、連携がとれていない。（アドバイスやマンパワー、情報提供など）
 - ・ 行政窓口が不明確（どこが窓口かわからずたらい回し）
 - ・ 市民協働にはワンストップ窓口が必要。
 - ・ 専属の職員がない。（自分の仕事を持ちながら片手間でやっている状態）
 - ・ 市民ができないことを行政が補完するという考え方にシフトしていく必要がある。それが「自治基本条例」ではないかと考える。
 - ・ 行政が細かいニーズを把握できない。それを市民に考えてもらい、手だても市民に考えてもらうという、という発想が必要。
 - ・ 市民に「市にやってもらうのが当たり前」の意識があり、これをどう変えていくかが課題。
 - ・ 市民は行政にやってもらって当たり前の感覚、行政は当たらず触らずの対応、という関係を変えていく必要がある。
 - ・ 自治会に若手が入りにくい。（活動時間帯も考慮する必要あり）
- (3) 市政参加や行政への協力について行っていること、これからの動向、行政への要望
- ・ 中心部の賑わいが必要。
 - ・ 学生の力を活かしていくこと。
 - ・ バス路線の在り方をきちんと考える必要がある。

- ・ NPOや市民活動は役所の多くの課にまたがる活動を行っているが、担当課が決まってしまうと動きにくい。
- ・ 役所の窓口のワンストップ化がなされていない。
- ・ 役所の中の横のつながりはどうなっているのかという施策面や事業面での連携が弱い。（縦割り）
- ・ 市民参加に関する条例をつくる動きがない。具体化されていない。
- ・ 市民に参加してくれ、といわれても、どうかたちでどこまで参加するのかがわからない。市民のほうから積極的に参加できる方法がない。
- ・ 行政が抱えている問題を、市民側に投げる仕組み（条例）がない。条例の中で仕組みをつくるのが理想だが。
- ・ 若い職員が動きやすい仕組みが必要。上司がきちんと汲み上げることが必要。
- ・ 職員の組織風土に「ことなかれ主義」のようなものがある。
- ・ 若手の人材育成が必要。モチベーションアップにも必要。
- ・ 江別市は職員について「専門家」を育成する意思がない。2～3年で異動になる。プロフェッショナルを育てるような人事を考えるべき。
- ・ せっかく入庁した職員にがんばってもらい、担当になった部署で熱意をもってやってもらう必要がある。
- ・ 文化行政が弱い。文化振興係は3人でやっているようだがあまり力が入っていない。どういう観点で文化行政をやっているのか見えてこない。文化関係団体が多い市なので、民度は上がると思われる。いまある強みを伸ばしていくという方向性がよい。
- ・ 農業については地盤整理（土地改良）事業が必要。輪作体制を構築する必要がある。営農指導体制をしっかりと市で力を入れて行う必要がある。

(4) 今後の江別市のまちづくりの方向性（どこに注力すべきか）

- ・ 医療機関の充実が重要。個別診療科目をしっかりと充実させる必要がある。
- ・ 子育てしやすい環境の充実。ただお金をつぎ込むだけではなく。
- ・ 大学の若い力を活かしていく。
- ・ 学生を受け入れる受け皿を用意する。たとえばボランティア活動ができるような場を用意するなど。大学のゼミで単独でやっているのはあるが、他大学との連携・あるいは市との連携という大きなコミュニケーションがない。
- ・ 役所の人事異動の影響を受けないように、「外部」にもプロフェッショナルをつくっておくという必要がある。
- ・ 若手職員と話し合う会のようなものがあるとよい。

2 団体の活動について

(1) 事業・活動の概要（とりまく環境、事業量、ニーズ）

- ・ まちづくり支援事業

補助金で何かをやりたいとき、他団体と力を合わせる出会いの場としての存在にもなる。子育てと環境や福祉と結びつけたりするときの出会いの場になるべきだが、そうなっていないのもったいない。守りに入っている。

(2) 団体の活動を行う上での課題

- ・ 多くの団体に問題があるはずなのに、大人しい、静か。
- ・ 相談にきてくださいと声をかけても来ない。
- ・ 受け身ではなく、市民活動団体からニーズを引き出していく必要があるが、人的余裕がない。
- ・ 事業に追われて余裕がなく、スタッフもボランティア感覚では回らないようになってきている。
- ・ 優秀なスタッフを確保するには報酬が必要となり、そのために事業に力を入れると本来の市民活動センターの活動ができない。
- ・ 市民活動が周知されていない。（市民活動って何？と聞かれる）
- ・ 行政が市民活動の「現場」を知らな過ぎる。

(3) その他

- ・ 子育て事業を行う際に、児童センターの職員を呼んできてその職員に任せれば、職員の研修になる上に、コストも浮くことになるし、モラルアップにもなる。
- ・ 職員研修の中に、各市民団体の中に若手職員を派遣して事業をやってもらうなどで政策形成研修として受けさせるというものもある。
- ・ 職員を派遣できる団体を認定する、といようなやり方もある。

女性団体との意見交換概要

日 時：平成24年1月20日（金）13：30～15：00

場 所：野幌公民館活動室（江別市野幌町3番地の3）

出席者：江別市女性団体協議会役員等

1 江別市全体に関して

(1) 江別市のよいところ・強み

- ・ 昔から住みやすい地域。地域・自治会の人たちが色々な行事をやってくれた。
- ・ 自然に囲まれている。土があって、安心できる食べ物が地元で作られている。
- ・ 札幌に近く、子育てしやすい街。
- ・ 環境がのんびりしている。
- ・ 病院が駄目になったときに、子どもの医療をどうしようかと思った（今は持ち直して良くなってよかった）。
- ・ 産婦人科がなくなったら困る。
- ・ 原始林があり、自然が豊富。原始林を多くの方が利用したらよい。
- ・ 江別は福祉のまち、と聞いていた。障がいの学校や施設、老人の施設などが、身近なところに多いように感じる。
- ・ 性教育が進んでいる学校がある。小学校3年生ぐらいから詳しい話をしている。
- ・ 30年前、江別は何もないまち、という感じだった。札幌はせせこましい。
- ・ 札幌近郊にも関わらず田園風景があったりする。
- ・ 大学があり、学生がいるので、一緒に何かをすることができるとうよい。
- ・ 札幌の郊外に住むくらいなら、江別の方がよい（札幌へのアクセスがよい）。
- ・ 自治会の関わりの中で、「愛のふれあい交流事業（社会福祉協議会）」を実施しなければ助成金がもらえないが、それによって地域での親睦につながっている面もある。
- ・ 入浴施設ができた（湯の花）。わざわざ市外から入りに来る人がいる。
- ・ イオンでは駐車料金がかからないので、札幌から気軽に映画を見に来られる。

(2) 江別市の課題、問題点・弱み

- ・ 子どもの教育がのんびりしている。
- ・ 札幌の衛星都市的な存在。
- ・ 下水道、水道代が高く水質も悪い（大麻の方はまだいい）。
- ・ 若い人の働く場所がない。学生人口は多いが、就職口がないために、定着しない。
- ・ 子育て世代が家庭をどこに持つかと考えるとき、短い時間でもよいから市内に「働ける場所」が必要だが、実際は少ない。
- ・ 空き地は見かけるが、そこに工場や企業を誘致するなどがなされていない（工業団地は売れているらしい）。
- ・ 各駅近辺に憩える場所がない。駅を降りてそのまま外に出ずにちょっとくつろげるような大型店舗がない（札幌市の手稲駅のようなイメージ）。

- ・ JRの駅が4つあるが、駅を中心として地区が形成され、江別・野幌・大麻という地区別に活動がなされて、江別市としての全体的なまとまりがあまりない。
- ・ 他からも人を呼べるようなイベントがない。あっても地区別に終始。
- ・ 江別は「札幌のとなりのまち」という位置づけ。認知度が低い。PRがなされていない。
- ・ 大学生はアルバイト先がないから、札幌に住んでしまう。
- ・ 岩見沢に住むよりは江別の方がよいが、「札幌市」に住んでいる、という方が聞こえがよい。
- ・ 地域の人がどういうことで喜ぶとか、便利とかを知ってもらおうと人が増えるのではないか。
- ・ 江別市内でも駅から遠い、近いで、札幌へのアクセス時間が異なる。
- ・ 野幌駅を降りたら、れんがの家並みがあるといい。
- ・ れんがの活用がうまくない。道路にれんがをひいている箇所があるが、車いすがひっかかり危険。無駄なお金は使わない。
- ・ 駅に「物産展」や農産物を売れる場所があるといい。
- ・ サイクリングロードを整備するなど人を呼び込むことを実施するといい。
- ・ 医療費の負担軽減に年齢拡大の余地がある。
- ・ 市の職員の札幌在住者が少ないのではないか。新規採用職員は江別に住むべきでは。実際に住むことで江別のよさ・悪さもわかってもらえる。
- ・ 幹線道路の除雪は良好だが、歩道の除雪は片側だけなのでよくない。住みやすさを考えると、安心して冬道を歩きたい。歩道がない側に住んでいる子どもたちは車道を渡ることになる。
- ・ 個人での排雪場所が分からない。雪山ができてしまって、子どもの通学時等に危険。
- ・ 江別の小中学校は老朽化が進んでいる。耐震工事をするのがよいのか、建て替えの方がよいのか、統合化がよいのか、検討が必要。
- ・ 観光に来る人がいない。

(3) 市政参加や行政への協力について行っていること、これからの動向、行政への要望

- ・ 「外」から人に来てもらう必要がある。
- ・ 「人が輝く共生のまち」というキャッチフレーズはわかりにくく、抽象的。この内容はどういう意味なのかと思う。例えば、「福祉のまち」や「子育てのまち」というように誰が見ても分かるようにしたらよいのではないか。

(4) 今後の江別市のまちづくりの方向性（どこに注力すべきか）

- ・ 身近に憩える場所があるとよい。
- ・ 公共交通が不便。バスは遠回りして時間がかかるので、利用しやすいバス路線にすることが必要。
- ・ 野幌から原始林まで行く道があったが閉鎖された。せっかく原始林があるのだから、

野幌駅から原始林へ行く道の整備が必要。れんがや原始林といった「いいところ」へのアクセスをよくするというようなことが必要。開拓の村にはボランティアの人がいる。原始林の散策で、野鳥の会の人たちなどにお問い合わせしたら付いてくれるサービスがあるとよい。

- ・ サイクリングロードの整備。

2 団体の活動について

(1) 事業・活動の概要（とりまく環境、事業量、ニーズ）

- ・ 大麻で高齢化が進んでおり、自治会の婦人部の人材が少なくなってきている。
- ・ 女性の自治会長があまりいないため、女性の意見が反映される機会がなかなかない。
- ・ 若い人は仕事があって活動が難しい。

(2) 団体の活動を行う上での課題

- ・ 高齢化や仕事をしている子育て世代が多いため人材確保が難しい。

(3) その他

- ・ 子ども世代を巻き込むような活動、つながっていく活動を行っていくことが必要。
- ・ 市が何でもできるわけではなく、住んでいる者の責任として自治会活動は必要。高齢者と若い世代の交流が必要。
- ・ イオンの「ときめいく」で仕事をしている障がいのある子どもたちがいるが、3月末で無くなってしまうと聞いている。江別にある施設（障がい者施設）で働いている人が訓練を兼ねてモノを作り並べ販売するというところに行っているが、買ってもらうこと、販売する場所があるということでそれが励みになっていた。
- ・ 江別は福祉のまちと考えているが、手を広げることも大事だが、確実に一つひとつを行っていく、大切なことを継続していくことが重要。
- ・ 南幌養護学校に行っている重度障がいのある子どもがいるが、学校のバリアフリー化がなされれば、南幌養護学校にまで行かなくてもよくなる。
- ・ 重度障がいの子どもの受け入れる場合は運用が大変。養護学校へ行かないまでも、特別支援学級をきちんとつくってもらって、そこにエレベーターを設置してもらいたい。ノーマライゼーションがなかなか実現できない。
- ・ 健康増進（医療費削減）のためにまちぐるみで介護予防を進めて欲しい。参加しやすい施設が近場にあればいい。

江別市高齢者クラブ連合会との意見交換概要

日 時：平成24年1月25日（水） 13：30～15：15

場 所：江別市総合社会福祉センター（江別市錦町14番地87）

出席者：江別市高齢者クラブ連合会役員等

1 江別市全体に関して

(1) 江別市のよいところ・強み

- ・ ごみの収集が良い。
- ・ 学園都市で若い人が多い。
- ・ 屯田兵の歴史がある。
- ・ 大手の企業がいくつもある。
- ・ 生協の工場誘致ができた。
- ・ 大麻地区は地盤がよく災害に強い。
- ・ 高齢者クラブ等を通じて高齢者が交流しており、何かあっても対応できるということがある。
- ・ 市税収納率が98%くらいと高い。
- ・ 石狩平野のど真ん中で人口は道内9番目。

(2) 江別市の課題、問題点・弱み

- ・ 除雪がよくない（時間が長すぎる、あるいは時間帯が悪い）。
- ・ 人口減少を前提として物事を考えなければならない。
- ・ 財政的な問題がある（たとえば除雪に対する予算の話にも関連するが）。
- ・ 少子高齢化（特に大麻地区）。
- ・ 若い人を呼び込まなければならないが、基幹産業（働く場所）が少ない。
- ・ 大麻地区には空き家が多く、放置されているものもあり危険（戸別住宅が多い）。
⇒売るなり、貸すなりして何らかの対策が必要。
- ・ 大麻地区は将来的には消滅するのではないかという危機感がある。
- ・ 自治会の役員のなり手がいない。
- ・ 消火栓の除雪を高齢者が行っている。
- ・ 製造業より流通業が多い。
- ・ 何につけても中途半端（札幌の衛星都市）。
- ・ 観光の資源・目玉がない。
- ・ 市内に4つある大学の活用。
- ・ 江別高校の跡地がもったいない。
- ・ 市役所が「分散」してかつ「老朽化」している。
- ・ 自治会への関心が薄い（特に若い人）。

- (3) 市政参加や行政への協力について行っていること、これからの動向、行政への要望
- ・ 企業誘致が必要。
 - ・ 行政主導で「道の駅」を作って欲しい。河川防災ステーションがあるが、中途半端で誰も来ない。
 - ・ 老若男女が集まることのできるイベントや交流の場、広場を設置してもらいたい。
 - ・ ハザードマップで指定されている避難場所が高齢者を考慮していないのではないか。
 - ・ コンビニ収納を実施してほしい。
 - ・ 桜や紅葉などを街路樹にしたり、石狩川を活用するために河川敷に植樹するなどして環境を整備し、食事をしてもらうなど札幌から来てもらうようにしてほしい。
- (4) 今後の江別市のまちづくりの方向性（どこに注力すべきか）
- ・ 地域のことは地域の住民が一丸となってやらなければならない。どうしても行政にやってもらわなければならないことについては行政に要請していく。
 - ・ お互いに助け合うということが必要である。
 - ・ 除雪対策。
 - ・ 空き家対策（滝川市には条例がある）。
 - ・ 直売所がいくつかあるので、それらを宣伝するなどして、街中に賑わいをつくる。
 - ・ 大麻団地をどうするかをしっかりと検討する必要がある。
⇒大麻地区は災害に強い街。
 - ・ 人を減らさないようにすることが必要。
⇒住みやすい街づくりが必要。
 - ・ 若い人が安心して働ける街づくり。
- (5) その他
- ・ 議員定数27人は20人でもよいのではないか。

2 団体の活動について

- (1) 事業・活動の概要（とりまく環境、事業量、ニーズ）
- ・ 会合等の活動をいろいろ行っており、街の活性化に貢献している。
 - ・ 市民が「交わる」場となっており、これが重要。
 - ・ 活動は、運動会、園芸、パークゴルフ、カラオケ、マーじゃん、誕生会など多岐にわたり、月に1回くらいは大きな行事を行っている。
 - ・ 4000～5000人の会員で構成され、コミュニケーションをとっている。
 - ・ 戦争をくぐり抜けてきたパワフルな世代である。
- (2) 団体の活動を行う上での課題
- ・ 若い人があらゆる活動に参加しない（仕事があるから）。
 - ・ 若い世代との交流が必要。

江別地区自治連合会連絡協議会との意見交換概要

日 時：平成24年2月22日（水） 18：30～19：30

場 所：江別市コミュニティセンター（江別市3条5丁目11番地の1）

出席者：江別地区自治連合会連絡協議会役員等

1 江別市全体に関して

(1) 江別市のよいところ・強み

- ・ 江別に住んで10年程度だが、江別は川と森に恵まれた緑のまち。レンガや焼き物で知られ、札幌も近く、バスも充実している。

(2) 江別市の課題、問題点・弱み

- ・ 江別地区、江別駅前の活性化が必要。最近シャッターが閉まり、ゴーストタウン化している。活性化のために、駅と商店街が入った集合住宅を地下道で結ぶというのも理想としてあるかと思う。（賑わいの創出）
- ・ 2月10日の新聞で、将来も江別に在住したいは87%となっていた。逆に、排雪は満足していない。総合計画策定に関して、いろいろな良い資料がある。一般の市民に周知するのであれば、各自治会会長に必要な資料（市民アンケート調査結果等）を配布すべきである。
- ・ 新聞で、札幌学院大学のスポーツクラブが夕張に行って雪かきを行っていることが、江別の学生がなぜ夕張なのかと思う。
- ・ 高齢化で除雪作業が大変。
- ・ 江別には若者がたくさんいるので、若者と高齢者が共生するまちづくりを一生懸命行っていく必要がある。（ハード面よりソフト面が重要）
- ・ 江別はフード特区に取り組んでいるが、学生街特区というようなものがあるのではないか。全市的な活動が必要。
- ・ 産業が成熟していないため、労働力を吸収できない。その結果、まちづくりの方向性が見えない。
- ・ 野幌、大麻、江別地区がばらばらになってまとまりがない。
- ・ 江別駅周辺の開発に一体性が見られない。人道橋の建設をするというが、橋上駅がなければ上江別との連絡が成立しない。南口がないのは江別駅だけになった。一つひとつやるのではなく一体的にやるべき。
- ・ 江別小学校が合併でもし移転となれば、跡地はどう活用されるのかが見えてこない。江別駅の開発と同時に一体的に考えるべき。
- ・ 江別の開発としては川をどう利用するか、という視点もある。ヨットハーバーができないか。
- ・ 豪雪でJRがガタガタになった。江別市は札幌圏という大きな視野のもとで考えなけ

ればならず、JRだけではだめで、新札幌から大麻まで地下鉄を開通させることが必要であり、それによって江別の将来が大きく変わる。

- ・ 若人の働く雇用の場を作っていく必要がある。産業の展開として、道の駅をつくることによって働く場をつくり、そこから事業をおこして活性化を図ってはどうか。
- ・ 条丁目の市街地の近代化ということで水道庁舎やみらいビルなどいろいろ建設されたが、物を造るだけでなく、地域住民とのコミュニケーションというか、市が事業を行う上で市街地がどうなるのか、市はどのようなまちづくりを行おうとしているのか、というようなことがわからない。
- ・ 江別地区で日用品を買おうとしたら、農協のみで、買い物難民になっている状況にある。農協がこのまま営業を続けるかどうか懸念される。
- ・ 市街地がさびれているが、行政が「市街地に対してこういうことをするので、協力してもらいたい」とコミュニケーションを行ってこなかった。大々的に問題提起して、話し合い、議論する必要がある。
- ・ 冬の三番通では、グリーンベルトが雪山になっており、視界が悪く非常に危険である。幹線道路が一車線になってしまうので、グリーンベルトを無くしたほうがいいのか。
- ・ 江別の除雪の問題として、角地の雪山で交差点の視界が悪く、事故につながりかねない。お金がかかるのはわかるが、最低限のところはやってもらいたい。
- ・ 子どものいる家庭にとって大切な予防接種のお知らせが「回覧」で回ってくる。これは個別にメールで対応してくれるとのことだったが、広報の電子化という話は情報化社会といっても現実的ではない。それより広報をより丁寧に行ってほしい。

(3) 市政参加や行政への協力について行っていること、これからの動向、行政への要望

- ・ 自治会の役員のなり手がいない。わがまちという意識が欠けている。都会の札幌に隣接しているのが不幸なのかも知れないが、若い人の意識が変わってきたのかと残念に思う。
- ・ 排雪、あるいは自治会のお金すら払わない、参加しないという問題がある。
- ・ 自治会の組織率は75%くらいだが、行政とのパイプとしての役割がある。もう少し広報を充実する等で、住民の意識が向上すると思われる。

(4) 今後の江別市のまちづくりの方向性（どこに注力すべきか）

- ・ 石狩川、千歳川、素晴らしい原始林があり、漁業もある。石狩川に昔チョウザメが泳いでいたことを活用できないか。
- ・ 札幌市にきた観光客に江別市にも来てもらおう、というような催しがあるとよい。漁業を見せる体験であったたり、恵まれた自然を生かして、観光振興してはどうか。
- ・ 自分たちの地域は札幌とは違ってこういうメリットや自然環境がある、というような街づくりを目指していかなければならない。

野幌地区自治連合会連絡協議会との意見交換概要

日 時：平成24年3月22日（木） 18：00～18：45
場 所：野幌公民館 研修室3、4号（江別市野幌町13番地の6）
出席者：野幌地区自治連合会連絡協議会役員等

1 江別市全体に関して

- (1) 江別市のよいところ・強み
 - ・ 交通のアクセスが比較的いい
 - ・ 住宅環境がいい

- (2) 江別市の課題、問題点・弱み
 - ・ 除排雪の問題。（札幌の住宅街の置き雪対策はいい）

- (3) 市政参加や行政への協力について行っていること、これからの動向、行政への要望
 - ・ 自治会活動等への参加、協力。
 - ・ 市民サービスを向上させるためにも、更に企業誘致（雇用の場の確保）を進める。

- (4) 今後の江別市のまちづくりの方向性（どこに注力すべきか）
 - ・ 経済力のあるまちづくりが、子育て支援、福祉サービス、安全なまちづくりに結びつく。

2 団体の活動について

- (1) 事業・活動の概要（とりまく環境、事業量、ニーズ）
 - ・ 自助、共助、公助の基本的理念を構築できる体制づくりに各団体が担う活動をする。（防災訓練等）

- (2) 団体活動を行う上での課題
 - ・ リーダーシップをとる方の高齢化。
 - ・ 団体役員のなり手が無い。

- (3) その他
 - ・ （仮称）戦略プロジェクトのイメージの例示と市民のアンケート結果（求めるもの）が異なる。市民意見の集約も大事だが、それとは別に、全国、海外の事例などを研究して、これから進みたいと考えるもう一つのベクトルをイメージしながら進めてもらいたい。

大麻地区自治連合会連絡協議会との意見交換概要

日 時：平成24年3月26日（月） 18:00～19:00

場 所：江別市大麻東地区センター（江別市大麻東町13番地の11）

出席者：大麻地区自治連合会連絡協議会役員等

1 江別市全体に関して

(1) 江別市のよいところ・強み

- ・ 江別市は、千歳川、夕張川、石狩川と3つの河川を有する他に稀な街でもある。河川でかつて不幸な部分もあったが、河川の整備が進み、逆に、この財産を有効に活用すれば市の発展に大きく寄与できる。
 - ・ 札幌の衛星都市としてJRによる交通の便の良さ。
 - ・ 広大な原始林公園をはじめとした緑の多い公園と文化、スポーツ施設の充実。
 - ・ 教育環境（4大学、道立図書館等）のよさ。若い人材、特に北翔大学には福祉の専門分野があるから、そういう若い人が江別ですっと生活できるような雇用があるといい。
 - ・ 市立病院が充実してきている。他の街へも派遣している。
 - ・ 医療体制が充実していると思う一方、アンケート結果では医師の質が低下しているという意見がある。
 - ・ RTNはアクセスの拠点だと思っていたが、こんな不便なところはない、という意見もある。とんでもないまちという意見がある一方で、昭和時代の安心・安全が奇跡的に残っているという評価がある。市民の意見は多様である。
 - ・ 農産物が豊かで、消費地が隣接しているという優位性がある（野幌原始林、自然環境を含めて）。
 - ・ 地区センター、公民館、体育館などの施設は満足度が高い。
 - ・ 江別市全体の面積187.57平方キロ（18,757ha）のうち約43%に当たる8,100haが農地面積であり、都市と農村の調和のある街。
- ⑩ 野幌森林公園（2,551ha）に代表される緑は、住環境においても豊かである。

(2) 江別市の課題、問題点・弱み

- ・ 江別市は、まだまだ一般住宅用地にできる土地がたくさんあるので、地価を抑えて若年層にも購入しやすい配慮を進めてはどうか。
- ・ 大麻で夏祭り等のイベントに関わっているが、江別、野幌、大麻の3地区の共同開催イベントを企画できると市の一体感も生まれ、経費節減にもつながると思う。
- ・ 少子高齢化の進展に伴う施策（若い年齢層の居住の促進）。
- ・ 地域の経済的活動の維持（シャッター街の対策…何かに利用できないか）。
- ・ 企業の誘致（大型店の大麻への誘致）⇒雇用の確保。
- ・ 税金が高い、水道料が高いという人もいる。地域によって水質に格差はあるが。

- ・ 街並みがみにくいところもある。
- ・ 札幌、空港へのアクセスは最高だが、市内の交通機関は貧弱で、交通網（網の目）になっていない。現実にはバスに乗る人が少ないからなのであろうが。
- ・ 除雪は、雪の少ないうちからこまめに除雪していないから大変なことになる（2番通、3番通側の住人より話があった）。
- ・ 所得税を払っている人が少ないため、いかに若い人たちを呼び込むかというまちづくり。⇒企業誘致、店舗誘致など。
- ・ 少子・高齢化の加速化（特に大麻地区）。
- ・ 地域コミュニティの脆弱化（自治会活動の担い手が減少）。
- ・ 企業誘致・雇用環境（道央<札幌圏>経済圏域の中で苦戦、ストロー現象）。
- ・ 社会資本が整備されているが、活かされていない。（高速道路東西インターチェンジなど。）
- ・ 見せるものはあるが、魅せるものがない。
- ・ 大麻の扇町、西町、沢町は子どもたちが少ない地区。あとは、ひかり町、西町の道営住宅の子どもたち。年寄りが生活していく上での利便性が求められる。
- ・ 文京台は、災害時に最も困る地域である。特に大きな地震の時に、消防車が来られない地域。文京台地区に消防署がほしいというのではなく、消防車を1台か2台配置してほしい。地域住民の安心・安全のために早期に実現してほしい。

(3) 市政参加や行政への協力、これからの動向、行政への要望

- ・ 各種審議会委員会への参加協力。
- ・ 指定管理者としての協力。
- ・ 環境整備（街路、公園の清掃、街路灯の維持管理）の協力。
- ・ 防災訓練による互助の協力。
- ・ 要望として、市立病院へ行きたいが、大麻からではバス代が高い。市立病院への通院のために、70歳以上の高齢者に優待券（バス代半額程度）を市が発行してはどうか。
- ・ 文京台地区は、ほとんどの人が札幌の病院へ行ってしまう。市立病院へ行くまでの交通費が非常に高い。高齢者に対する何らかの補助などの仕組みがあれば安心度が高まる。
- ・ 災害に強い街になってほしい。
- ・ 自治会で今力を入れているのが、独居老人の見守りをどうしたら良いかということ。住民カードを昔はきちんと作っていたものだが、今年は各自治会で避難者の訓練に合わせて説得して何とかやってみようと考えている。
- ・ 子育てしやすい環境づくりをぜひ充実してほしい（若い人たちへの魅力づくり）。住み替えのシステムをやることで若い人たちが住みやすくなるようにしてほしい。

(4) 今後の江別市のまちづくりの方向性（どこに注力すべきか）

- ・ 高齢者のいきいき対策（地域サロンづくり等）。

- ・ 4つも大学がある街は少ない。大学と地域の結びつきにおいて実効性のある政策を提案すべき。
- ・ 福祉、健康、子育てのしやすいまち（親が共稼ぎで働いていてもきちんと子育てができる子育て支援施設の増設）。
- ・ 全国学力テストの結果が平均以下というところが大麻にある。特に大麻では親が不満を持っている。小・中学校の児童・生徒の学力の向上を目指すまち（教師の指導力の向上も含む）。
- ・ 斬新なものに飛びつかず、まちのシンプルな最低限の機能を充実させ、そこに住民が豊かさを感じることができるよう。他の自治体と競うのではなく、住民が贅沢ではない真の豊かさを感じることのできるものを一つずつ行う。計画の方針の「戦略性」とは矛盾していないと思う。日常生活上では、江別はコンパクトなまちだと思う。普通の病気は市内の医療機関で充分。日常生活以上の生活の質の向上、自分の専門分野の向上を目指すのであれば、札幌になる。除雪が大変だから札幌へ引っ越すというのが一番困る。年をとっても一人で生活できるまちづくりを望む。
- ・ 江別の強みを活かし財政負担が少なく、市民協働によって実現可能な高付加価値化の方向。
 - 土地の付加価値化
 - ・ 雇用の確保による若者の定住促進対策として企業誘致（地域バランスを考えた大型店の誘致、国道 337 号、275 号 4 車線化、道道大麻北回り道路整備等に伴い、土地利用計画をどのように考えるか。）
 - ・ 見せる自然から魅せる自然へ（緑を活かした観光（集客力）と地域イメージアップ）例）鉄道林南側への桜の植栽（江別での連続性のある桜の植栽適地は、鉄道林沿線しかない。）
 - 環境の付加価値化
 - ・ 環境を強く意識した水辺の活用
 - 例）大麻中央公園や湯川公園をホタル舞う里にし、自然環境都市江別をアピール。（えべつホタルの会が行っているような放流はしない。自然回復、派生が原則であり子どもたちへの環境教育の場を兼ねながら植物生態、水生動物、昆虫等の自然循環の中で、ホタルの棲息を可能とする仕組みづくり。）
- ・ 原始林に木の生えていないところがあるので、長いスパンで市民参加により植林を行ってはどうか。自治会の花見などの活動に有効。
- ・ 春の喜びを感じられるようなもっと大きな桜並木など、今の環境をさらに良いものをつくっていき、住民の交流がもっと図られたら良いのではないか。
- ・ サロンづくりの場所について、シャッター街などを上手く活用できないか。

2 団体の活動について

(1) 事業・活動の概要（とりまく環境、事業量、ニーズ）

- ・ 自治会として行政に協力する活動として、街路花壇の整備、防災訓練による地域の共助のはたらき、健康増進のためのスポーツの振興、災害時における要援護者支援制度の活用、街路灯の維持管理、地域夏祭りの実施、高齢者の健康教室と交流会、安心・安全のまちづくり（自治会によるパトロール）、資源回収、共同募金協力、自治会だよりの発行、自治会排雪。

(2) 団体活動を行う上での課題

- ・ 指導者の育成と意欲化（役員の高齢化と後継者の不足）。60歳代はまだ働いていて忙しいので、役員をやってもらえない。
- ・ 活動資金の不足。新しい行事を何かやろうとすると資金が足りない。
- ・ 活動の参加者が大変少ない自治会がある。規模の小さい自治会ほど活動資金が少ないので、何か支援があれば良い。
- ・ あいさつ運動、自分たちのまちを自分たちで守るなど、住民意識の高揚に努める。
- ・ 自治会同士で勉強会を行って、弱い自治会を助けるようにしなければならない。
- ・ 役員の確保（現状の少子・高齢化現象で最も顕著な喫緊の課題）。行政との協力、連携、協働に大きなダメージ。

(3) その他

- ・ 昔と違い、個人情報取り扱いの難しさがある（住所、氏名、勤務先、子どもたちはどうしているのかななどを教えてもらう協力が困難）。悪用されないような活用を。
- ・ 要望として、平成21年10月の「大麻団地まちづくり指針」の具体化に対して市に指導的立場を発揮していただきたい。きちんとした推進会議をつくって、いろいろな分野の方に集ってもらい、協議し、実行してもらいたい。まち協のメンバーだけでは実現困難。

子育て団体（民間保育園）との意見交換概要

日 時：平成24年4月24日（火）19：00～20：30

場 所：野幌公民館研修室5号（江別市野幌町3番地の3）

出席者：江別市内の民間保育園園長、保護者等

1 子育て支援について

(1) 江別市での課題、問題点、弱み

- ・ 市民・保護者の抱えているニーズ・問題点を発掘する為のわかり易い子育て支援情報を市民にもっと提供すべき。色々子育て支援をやっているのはよくわかるのだが、もう少し市民にも検討できるような情報があれば、もっと市民からの意見も出やすい。
 - ・ 発達支援センター、保健センター、特別支援学級等の意義やわかり易い取り組み内容等をポスターやパンフレットで紹介することが必要ではないか。気になる子が増えている中で、どこに相談すればよいのかがあまり保護者に伝わっていない状況である。
 - ・ 学童保育は運営主体によって受入れ可能時間が異なり、お盆も1週間程度休んだりするので、子どもが保育園を利用している時の方が働きやすい。運営している法人の考え方もあると思うが、市として統一した方がよい。
 - ・ 医療費の助成を、例えば小学校6年生までなどに拡大してはどうか。
 - ・ 江別は札幌市や北海道などがはじめた施策を、何年か後に少しずつ後追いして実施しているという印象。江別の独自性を出さなければ、子育てに力を入れている街だという印象を持たず人口も増えない。
 - ・ 元江別わかば児童会は狭いのでなんとかしてほしい。また18時30分以降は料金がかかるので、市全体として統一して時間を延長してほしい。
 - ・ 希望する学童保育に定員で入れないことがあり、距離の離れたところに行くことになるが、小学校低学年のうちには交通安全の面で心配である。そして3年生・4年生くらいになると友人の家に遊びに行ったりして児童会に行かなくなり心配。学童保育自体の魅力の向上も必要ではないか。
- 「障がい児保育」という名称は保護者からすると抵抗感がある。「特別支援保育」としてはどうか。

(2) 江別市でのよいところ、強み

- ・ 子育て支援センターの配置、休日保育、病児保育、認定こども園などに割と早めに取り組んでおり、市民・保護者のニーズに迅速に対応できる点。
- ・ 自然に恵まれ、子どもたちが遊ぶのによい環境がたくさんあると思うので、子育てに役立てるために大切に守ってほしい。

(3) 今後の行政への要望（どこに力を注ぐべきか）

- ・ 一時預かり事業で現在、未満児の需要が増えているが、預かっているのは民間1か所だけであるため、公設の保育園でも実施してほしい。
- ・ 気になる子や一時保育への対応が増えているので、民間保育園にも保育士を加配してほしい。
- ・ 江別独自の施策が必要。財政的な問題もあると思うが、市長の考え方次第だと思うので、子育て支援に真剣に力を入れてほしい。
- ・ 発達に障がいのある子が利用できる民間事業者のサービスや施設が江別にはあまりない。民間事業者が江別へ進出して事業をやってみたいと思うように、何かしらの補助金を出すなど踏み込んで考える必要がある。
- ・ 予算の配分についても市全体の大きな括りの中で考えて、他の分野の予算を削って福祉分野に重点的に配分するという視点をトップに持ってほしい。
- ・ イメージ戦略として、子どもたちの集えるシンボリックな建物（中途半端な規模ではなく、屋内の全天候型で拠点となる施設）があると「子育て支援の街」を印象付けられるのではないか。

2 その他

- ・ 障がい児保育や学童保育の更なる充実が必要。
- ・ 国の子ども・子育て新システムの影響も気になるので、江別市としての近い将来の子育て支援計画等の情報発信を市民は求めている。

障がい者（児）団体との意見交換概要

日 時：平成24年4月26日（木）13：30～15：00

場 所：江別市役所市長公室

出席者：江別身体障害者福祉協会、江別手をつなぐ育成会、江別精神障がい者福祉会役員等

1 障がい者（児）支援について

(1) 江別市での課題、問題点・弱み

- ・ 障がい者が働ける福祉的就労場所が少ない。
- ・ 引きこもりの人たちへの働きかけが必要。
- ・ 広汎性発達障害の専門家の育成。
- ・ 高齢化した障がい者が安心して住めるグループホーム・ケアホーム等の増設。
- ・ 安心して地域生活を送るための相談支援事業の充実。
- ・ たとえば障がい者や家族が困ったときにそこにいけば必要な手続きが全部できる「ワンストップ窓口」や、ケアマネのように個々の事情に寄り添ってサービス利用の支援をしてくれる相談員の増員。
- ・ 就労の場の拡大や就職相談支援。
- ・ 小学校高学年以上の放課後支援事業。
- ・ 医療費の補助の拡大（療育手帳Bも対象に）。療育手帳Aや身障の重度の方は補助により助かっているが、B対象（軽い方）の方にも市として対策をとってほしい。
- ・ 成年後見制度利用支援事業。高齢者だけではなく障がい者も同制度についても支援事業の取り組みをよろしく願います。
- ・ 障がい者を対象にした避難所。知的障害を持っている方は大勢の中では生活できない。身体障がい者の方は用をたすのも非常に不便である
- ・ 障がい者団体の会員が高齢化し、会員も減少している。障がい者団体が会員以外の障がい者の状況・情報について団体として把握できない。（個人情報保護法などの関係による）
- ・ 障がい者団体の情報交換や連携の場がない。
- ・ 若い世代の障がい者の就労の場がない。ハローワークで障がい者の求人を見ても、フルタイムが少ない。
- ・ ガイドヘルパーが高齢化してきている。
- ・ 歩道のレンガ使用は杖に引っかかり非常に歩きにくくて困っている。
- ・ 歩道に自転車や看板などの突出物があり危険。自家用車が歩道を塞いでいることもあるのでこれを無くすよう啓蒙・指導を徹底してほしい

(2) 江別市のよいところ・強み

- ・ 「よるのにじ」、「ときめいく」などの新たな視点での事業の開拓をしてきている。

- ・ 福祉の窓口の対応が親切でよい。
- ・ ニーズに応じて福祉サービスを増やしてくれている。
- ・ 大麻駅前広場が利用しやすくなった（バス停に屋根がつく、自転車置き場が整備されたなど）。

(3) 今後の行政への要望（どこに力を注ぐべきか）

- ・ 道立高等養護学校の誘致。
- ・ 自立支援協議会に当事者団体が参画していない。
- ・ 就労支援対策。
- ・ 相談支援のための窓口の充実。
- ・ 障がい者の就労の場（会社）を作ってもらいたい。
- ・ 視覚障がい者は情報を受け取りにくい立場にあるので、ハード整備に力を入れてもらいたい。
- ・ 駅ホームのエレベータ、エスカレータの乗降口の音声化を徹底してもらいたい。
- ・ 国で行っている同行援護と市町村で行っている移動支援は将来も存続してもらいたい。
- ・ 国で障がい者総合福祉法（仮称）が検討されているが、これに関連して市が策定する福祉計画は障がい者の参加により策定してもらいたい。
- ・ 目的地の音声標識ガイドシステムを導入することを、バリアの無いやさしいまちづくりのために総合計画に盛り込んでほしい。
- ・ 要援護者の避難訓練を市が音頭をとって自治会等で実際に行う必要がある。
- ・ 音声付信号を充実してもらいたい。国道を渡る方向の横断歩道は「ピヨピヨ」、国道と並行して渡る横断歩道は「カッコー」と統一してほしい
- ・ 盲導レールを充実してもらいたい。
- ・ もっと動ける若い人が視覚障がい者のガイドヘルパーになれるように講習費用を助成してもらいたい（65歳以上だと無料で育成講習を受けられるが、若い人への助成が無い）。
- ・ 市で音声PC講座を行っているが、基本編の上のランクの講座を行ってもらいたい。
- ・ 福祉のまちづくりのために、高齢者や障がい者の個人情報について、障がい者団体や自治会に開示・共有化ができるようにしてもらいたい（個人情報保護法がネック）。
- ・ 災害時の防災サイレンと放送がかぶってしまっていて聞こえないというようなことがないようにしてもらいたい。
- ・ 国の動向がはっきりしなくても、江別として独自にどう対応するか考えられるようなスペシャリストが担当職員にいてほしい。
- ・ 障がい者を含めた市全体での避難訓練が必要。
- ・ 歩道を自転車と歩行者に明確に区分してほしい。2cmほどの段差をつけてもらえるとう区分が明瞭となる。

子育て団体（江別私立幼稚園連合会）との意見交換概要

日 時：平成24年6月5日（火）16：15～17：15

場 所：のっぽろ幼稚園（江別市野幌若葉町3番地の3）

出席者：私立幼稚園園長等

○新総合計画において幼児教育を視野に入れた施策づくりが必要

- ・ 現行の総合計画に幼児教育をどうするかという発想がそもそも無かった。
- ・ 江別市が幼児教育ということをもまず自分自身で考えてほしい。我々の意見を聞いて、それを江別市の意見とするのではなく、江別市における幼児期の教育というものの位置づけをまず考えてほしい。
- ・ 新総合計画の中に「幼児教育」という視点・文言をきちんと盛り込んでほしい。
- ・ 幼保一元化構想がどうなろうと、幼児教育に視点を当てて施策を考えていくという方針を打ち出してもらいたい。
- ・ 教育という部門で今までの制度のあり方が不備であったということ、これからは実態に即しながら幼児教育・幼稚園を視野に入れた教育が非常に大事だということ、そして保育園も含めて総合計画の中にどう位置付けるか、という基本的な発想を新総合計画案の中で明らかにしてもらいたい。一般市民が見たときに江別市の教育問題でここが欠落していた、盲点だったという理解させるために、問題提起を含めて、過去の反省に基づいて江別では今後こうする、というものを示してもらいたい。

○総合こども園構想（幼保一元化）との関連

- ・ 認可権を市町村にするという案が出されているため、市として幼児教育に対する考え方をきちんと持ったうえで判断しなければ、経営に走るような法人が参入してしまい、競争に晒されて幼稚園全体が荒れていく恐れがある。
- ・ 働きたい人が安心して働けるということを保証する、保育園も幼稚園もどちらも自由に選べるというような制度を保証してもらえるのが理想的である。
- ・ 認定こども園をやっており、保育園と幼稚園が一緒になっているが、それぞれ制度がバラバラであるので統一してもらいたい。
- ・ 総合こども園構想がどうなろうと、江別市として新総合計画策定の中で、幼稚園というものを視野に入れた施策づくりを検討してほしい。

○継続的な意見交換の場の設定

- ・ 一回の意見交換で終わりではなく、幼児期の教育というものをどう考えていくべきかについて一緒に考える時間を持てればよい。

- ・ 連合会全体とではなくても部会のようなものをつくって、継続的に江別市のこれからの幼児教育を考える部門をつくっていただきたい。
- ・ 具体的にどのような施策の中にどのようなことを入れていくのかは、部会のようなものを立ち上げて議論をしていくことが有効だと考える。
- ・ 連合会としても次期総合計画策定部会のようなものを立ち上げて、市と一緒にこれからの細かな議論をしていきたい。

○保育園担当部門と幼稚園担当部門の統合

- ・ 乳幼児期の子どもにとって本当に必要なものは何なのか、ということを経営的・総合的に考える部署をつくってもらえないか。
- ・ 子どもたちのことを市と一緒に考えていける窓口が必要。
- ・ 幼稚園の部分と保育園の部分の一つの部署に統合するのであれば、幼児教育という理念をしっかりと入れなければならない。保育園だとか幼稚園だとかではなく、江別の子どもに対して同じような幼児教育を受けさせていく、あるいは受ける権利がある、ということが必要。そこが一番の基本で行政が政策として考えるべきところである。
- ・ 市の職員には幼稚園・保育園両方の役割・あり方を理解してもらいたい。
- ・ 子育て支援部門と教育部門が相互理解しなければ認定こども園も理解されないし、幼稚園も理解されないし、これからの子育てをどうしていこうかということも議論されていかないと思う。市の教育委員会と子育て支援室で協力して、どうやって子どもたちを見ていくかという施策をつくっていただきたい。

○幼児教育のあり方

- ・ 連合会の中の共通理解としてあるのは、幼児教育というのは小学校に上がるための準備ではなく、人生の土台をつくっていく時期であるということ。
- ・ 子どもの想いというものを考える必要がある。どこかで子どもの代弁者になれる人が入っている政策の作り方が必要。
- ・ 保育園も幼稚園も未就園もすべて含めて、教育的な部分で子育てをどうしていくかということをしかりと考えてもらいたい。
- ・ 学校教育法の中で幼稚園教育は位置づけられており、文部科学省でやっている。法律に基づいているのに、そこを江別市が抜かしているというのは理解できない。
- ・ 理想論、教育の原点を考えれば、子どもは生まれてから少なくとも1～3歳くらいまでは親が育てるのが一番であるので、どうしてもそうできない環境の人たちを受け入れるという気持ちしかない。だから教育を考えるときに、預かる場所があるかないかではなく、子どもがどうやったら一番幸せになれるのか、という原点で本当は考えなければならぬ。

- ・ 特別支援について、親御さんからの問い合わせが結構あるので、そういう子どもをすべて受け入れられるという制度になってほしい。
- ・ 子どもたちが江別で育って、そして自分も江別で子育てをしたいと思えるようなまちづくりが理想。

子育て団体（江別市内小中学校PTA連合会）の意見（後日提出意見）

日 時：平成24年6月5日（火） 18：30～18：40（説明のみ）

場 所：野幌公民館会議室3号、4号（江別市野幌町3番地の3）

出席者：小学校、中学校PTA役員等

1 子育て支援について

(1) 江別市での課題、問題点、弱み

- ・ 校区に学童保育がない地域がある。〈※注：現在は市街地の全校区にある。〉

(2) 江別市でのよいところ、強み

- ・ 意見なし

(3) 今後の行政への要望（どこに力を注ぐべきか）

- ・ TT（チームティーチング）だけでまかなえないところもあるようなので、有償ボランティアなどを支援して、障がいのある児童も通いやすいようにしてほしい。
- ・ 子どものスポーツの経済的支援（全国大会の旅費など）。
- ・ 学童保育の無料化。
- ・ 中学生の障がい児が放課後にすごせるところ（学童保育のように）。

2 その他

- ・ 計画立案に行政だけでなく民間パワーの活用を。

子育て団体（えべつ保育園連合父母の会）との意見交換概要

日 時：平成24年7月4日（水）19：00～20：30

場 所：野幌公民館研修室5号（江別市野幌町3番地の3）

出席者：えべつ保育園連合父母の会（江別市内の市営保育園に通園する児童の保護者）

1 子育て支援について

(1) 江別市での課題、問題点、弱み

- ・ 国の方針がはっきりしていないのはわかるが、市としてどのように子育て支援をしていくのかということが伝わってこない。
- ・ 子どもを土日に遊びに連れていく場所が無い、もしくはあったとしても周知が足りないため、市外に遊びに行ってしまう。
- ・ 子育てするには食べ物や飲み物のことは非常に重要であるが、水が美味しくないというイメージがある。
- ・ 保育園にいる時間が家にいる時間より長いので、保育園には子育て支援というよりは子育てのパートナーとしてもう少し主体的に関わってもらいたい。
- ・ 3歳から医療費が1割負担になるが、病院にかかることが多くなる年齢のため負担が大きいので、医療費補助を拡大できないか。
- ・ 住民税が高いというイメージがある。

(2) 江別市でのよいところ、強み

- ・ 子育て支援センターはとても良い施設なので、もっと利用しやすいように土日の開館日を増やしたり、平日の開館時間を長くするなどしてほしい。
- ・ 病児・病後児保育の実施機関がもっと増えると強みになる。
- ・ 農地や自然が身近にあるので、それを活かして体験型の教育やイベントを充実させるとよいのでは。

(3) 今後の行政への要望（どこに力を注ぐべきか）

- ・ 予防接種（子宮頸がん、ヒブ、肺炎球菌など）の補助を今後も継続してほしい。
- ・ 子育て支援に力を入れているということをアピールできる取り組みが必要。
- ・ 保育園で英語教育などをやってほしい。
- ・ 河川防災ステーションをもっと遊べる場所にしてほしい。
- ・ 今後の子育てに漠然とした不安感があるので、それを払しょくできるようなわかりやすい子育て支援情報の提供が必要。
- ・ 保育料を安くしてほしい。
- ・ 高齢化社会で高齢者との関わりが大事になってくるので、幼稚園でやっているように保育園でも児童による高齢者施設の訪問などをやってほしい。

- ・ 小さな公園より子どもが遊べる大規模な公園の機能の充実を優先させてほしい。
- ・ 地域と保育園の交流や、学生ボランティアとの交流などがあるとよい。
- ・ 出産祝い金（一時金）が欲しい。
- ・ 市立病院の出産費用が安いとか安全であるということをもっと PR すべき。
- ・ 出産から子育て、教育、そして子どもが就労するまでの支援を、一貫してトータルでもっと力を入れほしい。
- ・ 事実に基づかない悪いイメージ（水が美味しくない、水道料金が安い、住民税が高いなど）が先行しているので、良いイメージづくりが必要。
- ・ 子どもが江別市で育ったことを誇りに持てるようなまちづくりをしてほしい。
- ・ 元気な高齢者を活用した子育て支援策があるとよい。

農業関係団体（農業委員）との意見交換概要

日 時：平成24年6月27日（水）16：00～16：45

場 所：江別市民会館21号室（江別市高砂町6番地）

出席者：農業委員

1 農業の活性化について

- ・ 江別は、屯田兵や北越植民社など、本州からの移民でできたまちなので、100数十年の歴史的な文化背景を加味して、将来の子どもたちを見据えてどこかで表現してもらいたい。農業をメインとして携わった昔の人たちのことをきちんと勉強して、後世へ伝えていく必要があるのではないか。
- ・ 都市計画マスタープランにしても、新しい総合計画にしても、自分たちの住んでいるところで企業を誘致し雇用を増やして生活を活性化しようというのが基本的な考え方ではないかと思う。農業分野では、全国的な政策が農業では多いが、江別市ではそういう部分を取り込みながら、地域産業の大きな部分である農業の活性化について、フードコンプレックス関連で、食産業は江別が生きる一つの大きな柱である。企業誘致に関しても、地域の食材、農業と関連できるような企業の誘致というものをこれまで市長との意見交換等で話している。RTNは当初、情報先端産業の企業誘致の場所であったが、20年以上の時間の経過で、今後食産業を重点項目において誘致していくことになり、その関連では、緑地面積の20%の緩和措置をとったという方向性も示されている。農業の立場、視点からでは、そのような企業誘致と地域農業との連携をとることを一つのまちづくりの柱としていただきたい。
- ・ 市民農園のニーズが、街の人にどのくらいニーズがあるのかを知りたい。それによっては、市民農園を拡大して市民と交流することを考えていきたい。
- ・ 江別は、いろいろな観光のものがあるが、1か所で江別のことが分かるところがない。12号線や275号線、恵庭線は交通量がすごく多いが、観光バスが寄る所はほとんどないと思う。いろいろなものをいくら作っても、市外に宣伝するとなると人の口で宣伝するしかない。江別のまちは、そういう観光の場所がないからインパクトがない。個人的に食べたいと思うのは、江別ピザ。
- ・ これまで市民会議等で出た農業関係の意見は、狭い範囲の意見が多いような気がする。直売所をどうするか、あるいは札幌の大消費地をどうするか云々ということであるが、現実論から言うと、北海道の中で札幌だけを大消費地と言えるかどうかというと難しい。江別で作っている農産物のほとんどは道外へ行っている。江別の今後の発展のために、フードコンプレックスがどのように働くか分からないが、どうしても道外など戦略的に違う所へ持って行くということが見えてこないとならず、現実的には、経済としてお金

が回らなければならない。身近な意見としては良いが、これら意見の内容は実際のところ全体の数パーセントのものであると感じる。オール江別の知恵の中で、どう道外への戦略とするかということがあると、今後の担い手には良いのではないか。

- ・ フードコンプレックスの企業誘致の主体は産官学連携の研究機関であるが、食材だけでなく医療、医薬、サプリメント等の開発を行なって東南アジア方面への展開も考えているので、農業者の側も食べるものだけでなく、そういう研究機関と共に地域農業、産業をつくっていく方向のメニューやアイデアで勝負をかけてほしい。
- ・ 最近、地元に住まないで街に住んで、街から通って農業をするという形態が増えていると感じる。生活環境、住居の関係があるかも知れないが、生活に不便さを感じているのではないかと思う。例えば、公共施設、学校がまずなくなり、最近では、JAもお客が来ないから店舗を閉めたいということになる。以前、市長が言っていたようなコンパクトシティというような発想があるのではないかと思う。街の中ばかり公共的なものをつくるのではなく、農村地区でも公共的な場所が基点としてあるとよいのではないか。

2 市政全般について

- ・ 子どもたちがゆっくり、安心して遊ぶ場所が江別にないように思うので、そういう場所をつくるのも良いのではないか。

農業関係団体（JA 道央等）との意見交換概要

日 時：平成24年7月5日（木）18：00～19：00

場 所：JA 道央江別事務所3階 2号会議室（江別市6条8丁目1番地）

出席者：JA 道央の江別地区・野幌地区の理事、江別土地改良区理事、
南美原土地改良区理事、JA 道央江別営農センター職員

1 農業の活性化について

(1) 江別市での課題、問題点、弱み

- ・ 時代の背景や景気の動向で消費者ニーズが変わっていく中で、農業という一つの産業としてどう確立し、自立していくのかを考えるため、市内で農業がどのような位置づけで評価されているのかを考えなければならない。
- ・ 農業と介護は就業希望者が少ない。これは過去からの汚いとか辛いというイメージによるものだと思うが、これを解消できるように、農業の魅力を市民にアピールして農業を理解してもらう手立てが今まで以上に必要ではないか。

(2) 江別市でのよいところ、強み

- ・ この10年で直売所等も数が増え、市民が地場の野菜を手に入れやすくなった。

(3) 今後の行政への要望（どこに力を注ぐべきか）

- ・ 江別市の食糧自給率を算出することで地産地消等のPRができるのではないか。
- ・ 現行の総合計画策定時から、後継者の問題や市内農産物のブランド化の問題はあったのではないかと思う。まず実現できなかった原因を検証してからでなければ、我々が何をしなければいけないのか、また行政に何をお願いしなければならないのか、それぞれの立場での役割が見えてこないと思うが、検証結果はどうなっているのか。
⇒ 現行計画が目標年次である平成25年度に向けてどこまで進捗しているのかという評価を行い、この評価結果と皆さんからいただいたご意見を併せて、今後の方針を検討していく予定である。
- ・ 市が道央農協と連携して市内の農家の経営実態や生産の実態を把握し、どこに問題があるのかを把握した上で、今後どこに重点を置いて取り組むか考えていくべき。
- ・ 農協として、または個人が市民会議の意見を参考に活動に移したいと思ったときや、フード特区を活用したいなどといったときに、スムーズに実現できるように支援等の対応をしてもらえる市の窓口をつくる必要がある。
- ・ ドイツで盛んに行われている、市が農地を長期間貸し出して市民が家庭菜園など憩いの場として自由に使うというシステムを構築できないか。都市計画や農地法の規制もあり、個人ではできないことなので市としての構想が必要である。農業のことだけでなく、働き盛りの世代に江別に住んでもらうための取り組みにもなるのではない

か。

- ・ 農業者の所得水準を向上させ、農業の魅力を高めるために土地改良等農業の基盤強化に力を入れていただきたい。また、新規就農者のために資金面や設備面での支援を手厚くしてほしい。
- ・ 異業種との交流機会がこれまであまりなかったが、どの産業も逼迫してきている中では農・商・工の各産業がお互いに相手の立場を認識する場を設けて、長期的な視点をもって連携を強化していかなければならない。江別に住むすべての人が、一つの目的に向かって進むためには、みんなが関わることによって江別というまちを再認識し、進むべき方向性や将来に向けての意識付けをする機会が必要である。

2 市政全般について

- ・ やきもの市に来る観光客をいかにしてリピーターにするのか、市外からいかに人に来てもらうかということも考えなければいけないが、これも農・商・工の連携が必要である。
- ・ 江別のやきものと小麦を結び付けて観光資源化できないか。例えば市内の窯でラーメンどんぶりを焼き、小麦の刈り取り風景を見てもらう。小麦の乾燥施設を見て、さらに江別製粉や菊水で製麺の過程を見学してもらう。後日焼いたどんぶりと麺をセットで郵送し、自分で焼いたどんぶりでラーメンを楽しんでもらう、というような江別でしかできないような企画ができないか。観光資源化したときに利益配分もできるような仕組みを何とか考えられないものか。

経済団体（江別医師会）との意見交換

日 時：平成24年7月10日（火） 18：30～19：05

場 所：商工会議所2階 会議室（江別市4条7丁目）

出席者：江別医師会役員等

1 地域の医療について

(1) 江別市での課題、問題点、弱み

- ・ 市立病院の夜間救急の対応の充実が必要。
- ・ 産科では、重篤、救急の患者は札幌へ搬送しているが、本人や家族の負担が大きい。市立病院で、もう少し積極的に受け入れられる体制ができないか。産婦人科と小児科の体制が安定していないと難しいが、そういう方向性が必要ではないか。産婦人科、小児科の体制が今以上に整備されると子育て生活が安定していく。地域医療として大切な要素であるので、前進させる方向性の模索は必要。
- ・ ただ、現状の小児科体制を崩壊させるような仕組みでは意味がないので、小児科の供給体制などとのバランスを図りながら長期的に検討する必要がある。
- ・ 土日の予防接種については、医療側の負担が大きいですが、平日に受診できない共働きの子育て世代からの要望があるのであれば、何らかの形を考える必要がある。
- ・ 検診の受け入れ体制はあるが受診率が上がらない。検診内容をより魅力のあるものにしていく必要がある。
- ・ 急性疾患（脳梗塞、脳出血、心筋梗塞など）の市内での受け入れ体制。

(2) 江別市でのよいところ、強み

- ・ 札幌が近いので、救急医療、高度医療ともに札幌圏内で十分に対応が可能であるので、短期治療入院の溪和会江別病院、市立病院の体制を充実していくとよい。
- ・ 医療情報の共有と、その実施面での応用が容易で迅速。
- ・ 小児科に関して、市立病院が365日、二次救急として対応している。
- ・ 札幌に近く、休日当番、病診連携もうまくいっている。

(3) 今後の行政への要望（どこに力を注ぐべきか）

- ・ 現状の制度を知らずに出ている市民意見もあるので、市民に対して、現状の医療制度の周知が大切。
- ・ 現在の医療制度を市民に説明し、その上で市民と医師会がやれることやれないことを議論して、そこからいいものを生み出すような場があるとよい。
- ・ 札幌市で現在検討している医療のコールセンターがあるが、こうした取り組みも含めて江別の救急体制のあり方を考えていく必要がある。
- ・ 子育て支援策として、中学生までの医療無料化、保育所の民間助成を増やして新規参

入を促す。また、基礎年金で生活できるグループホームの開設など民活を支援して充実させていく。

- ・ 病児を一時的に預かる公的な施設の新設（核家族化、共働き家庭が増える中で若い親にとって切実な問題）。
- ・ 公費による予防接種のさらなる充実（水痘、おたふくかぜ、B型肝炎、ロタウイルスなど）
- ・ 国保のデータを分析し、効果的な医療と介護体制としていくことが重要。
- ・ 専門性が必要な行政の担当が3年ごとに異動して課題の解決が遅いため、人材が育たない仕組みを改善すべき。
- ・ がん対策は医療の現場をよく見て地域あった対策や工夫が必要。
- ・ 結果的に医療費の削減につながるワクチン接種の強化、無償化、啓蒙の強化。
- ・ 受診抑制による疾病の重症化対策や、医療費の高額化対策の面からも、必要な受診と治療をきちんと受けることが重要。
- ・ 救急医療体制のより強化、充実。

2 市政全般について

- ・ 媒体効果の高い広報えべつの有効活用。情報が不十分な部分もあるので整理する必要がある。また、転入者にも分かりやすい情報提供を検討する必要がある。
- ・ 市役所の情報提供のあり方について、各分野（医療以外も含めて）で行っているものを集約して発信する仕組みづくりが必要。
- ・ 周囲を見て判断するのではなく、災害に対する市独自の取り組みなども含めて、地域特性を活かした市独自の取り組みが必要。
- ・ 札幌圏の中でも札幌との繋がりが強いため、それを活用すべき。
- ・ 健康福祉行政において、自然、食の安全が健康につながることを強調した特色づくりが必要。
- ・ 地域の特性を活かした明るい未来像の提示と具体的な施策を、強いリーダーシップのもとで明確に市民に示し、果敢に実行する。～自然がいっぱい、安全な食が充実、安心した子育て環境など、豊かではなくても安心した老後の生活が見える市政を。
- ・ 市議会議員は市の身の丈にあった少数精鋭がよい。
- ・ 太陽光発電、バイオマス、雪の夏季冷房への応用など、クリーンエネルギー産業に力を入れる。
- ・ 自然に恵まれ札幌の中心にも近いので、江別、野幌駅までのアクセスをもっと便利にする。
- ・ 自然環境を大事にしながら、農業を含めた地域の産業を活性化する環境づくりの推進と、若い夫婦が安心して子育てできるような市政を推進して活性化を図る。

※文書による意見を含む。

えべつ未来中学生会議・意見概要

日 時：平成24年7月11日（水） 午後5時00分～午後7時10分

場 所：グレシヤムアンテナショップ

出席者：江別第一中学校、江別第二中学校、江別第三中学校、野幌中学校、角山中学校、
大麻中学校、大麻東中学校、江陽中学校、中央中学校、立命館慶祥中学校から
各1名ずつ 計10名

1 未来の江別市はこんな街

① こんな街に住んでみたい

- レンガがしきつめられている歩道がつづく道がある
- 緑がたくさんあって、道の途中に噴水やベンチなどの休憩スペースがある
- 何か誇れるブランドがあるまち（例：江別の小麦でまちおこし）
- 特産品を増やして観光客を増やす
- 仕事ができる場所がある
- 街灯が多くて明るいまち
- 空気がきれいなまち
- 各地域に商店街があり、それがにぎわっているまち
- 自然が豊かなまち
- 近所付き合いの良いまち
- 人が集える場所があるまち
- 外国からも観光客が集まるまち
- 子どもや高齢者が安心して暮らせるまち
- 都市機能と自然環境の共存したまち

② こんな街だったらいいな

- 利用しやすいスポーツ施設がある
- 近くに大きな図書館がある
- 農業を盛んにして雇用を増やし、ブランド製品をつくる
- 江別ならではのものをPRして海外から人を呼ぶ
- 市の情報発信機能の充実
- 江別駅周辺の活性化
 - ⇒ 江別駅周辺に人が集まれるカフェ・雑貨屋などがあり、活気がある
 - ⇒ 江別駅でしか買えないものを販売
 - ⇒ 江別駅周辺に江別ならではのコンビニ
- 高齢者の買い物対策ができているまち

③ 江別市のここが変わったらいいな

- 角山は不法投棄が多いので無くなってほしい

- 酪農が盛んなので、もっとPRを
 - ⇒ 市内スーパーで市内酪農家がつくった製品を販売・PR
- 商店街を活性化してほしい
 - ⇒ 江別産の野菜や日用品を商店街で販売
 - ⇒ 江別出身の有名人を使ってコラボ商品開発
 - ⇒ お店と市民が協力して商品開発
 - ⇒ 店内に産地表示をしたり、無農薬の地元産品を取扱うなど安心・安全を強調
 - ⇒ 地元の新鮮で安いものを揃える
- 江別の良いものを市民に知ってもらえるようにもっと情報発信

2 もしあなたが市長だったらやってみたいことは何ですか

- 国際化へ対応するため、海外留学生を積極的に受け入れ、小中学生とたくさん交流の場をつくる
- ポイ捨て防止と健康増進のために、タバコを吸わない日をつくる
- 障がい者もお年寄りも子どもも、誰もが住みやすいまちにする
- 大人も子どももみんなが交流できる公園をつくる
- まち全体でゴミ拾いをしたりお祭りを作り上げるなど、まちの人が交流できるまち
- 公共施設をもっと色々な人が利用できるようにしたい
- 江別産のものを知ってもらうために、給食で使う江別産食材を増やし、お昼の校内放送で食材の紹介をする
- 酪農や農業に力を入れて、直売所を増やし、地産地消をすすめる
- 海外の色々な市と姉妹提携して交流したい
- 江別に住んでみたいと思ってもらえるまちづくり
- 風力発電
- 長く住んでもらうために職業科の学校を建設し、卒業後も市内で仕事ができるような施設をつくる

えべつ未来高校生会議 意見概要

日 時：平成24年7月7日（土） 午後1時30分～午後3時40分

場 所：グレシヤムアンテナショップ

出席者：江別高等学校、野幌高等学校、大麻高等学校、とわの森三愛高等学校、
立命館慶祥高等学校から各2名ずつ 計10名

1 江別市の好きなおところ、嫌いなおところ

① 好きなおところ

- 市内で生活に必要なものがすべて買える、主要な商業が整っている
- 広くて身近に自然がたくさんある
- 安心・安全で住みやすいまち
- 都会過ぎず、田舎過ぎず、ちょうど良いまち
- レンガが多く使われた街並み
- 札幌市に近く、利便性が良い

② 嫌いなおところ

- 市内に高校卒業後の就職先が少ない
- 江別市は面積が広いので、端の方にいくと公共交通機関が不便
- 雪が多く、登下校に苦労する
- 街灯が少ない
- 「札幌市の隣」という知られ方のため、「江別市」という名であまり知られていない
- 大型スポーツ用品店が無い
- 市民全員が集まるようなイベントが物足りない
- 若者向けの店が少ない
- 江別⇒札幌方面のJRは多いが、江別⇒岩見沢方面は少ない
- 大型の書店が無い
- 楽器店が無い
- 大麻駅の自転車置き場がぐちゃぐちゃ
- 道路が狭い
- 『江別』の名を冠した江別駅とその周辺が寂れている

2 江別市の強み、弱み

① 強み

- 札幌に近いこと
- 大学や高校がたくさんあり、若者が集まりやすいところ

- 農業が盛んで、身近に農作物が手に入る
- 地価が安く、札幌並みに住みやすい
- 野幌総合運動公園
- グレシャム市との姉妹都市提携、国際交流
- 特産品が多く、消費者がより安全な商品を選べる
- 食料自給率が高い
- 自然が多い

② 弱み

- 特産品や有名なところが知られていないし、興味がわからない
- 札幌に近いこと（札幌に人をとられてしまう、頼ってしまうなど）
- 観光客を呼び込むための取組みが少ない
- ホテル等の滞在施設がなく、入込観光客数が少ない
- 少子化
- 江別駅周辺の衰退
- 目玉となる観光施設が無い
- 働く場所が少ない
- 大型店による商店街の衰退
- カラスが多く、襲われることもあり危険
- 地元製品のPR 不足
- 自然を活かしきれっていない

3 未来の江別市に対する希望（これからの江別市に必要なこと）

- 江別市なりの良いところ、独自性を出して行ってほしい
- 市内にもっと大きな就職先があるとよい
- 市外の人にもっと自然が豊かなことをPR すべき
- 江別駅前にコンビニがほしい
- 市内の建物の耐震性を見直したほうがいい
- 歩行者と自転車の通行を分離した道路を全市的に拡げてほしい
- 自然のことを学習するメニューを教育に取り入れて行ってほしい
- 花火を使って特産品をPR
- 農家民泊とかレンガ工場体験など、江別の特産に関連した滞在型の観光
- 市民の意識改革により、市民が江別市に興味を持ち、積極的にまちづくりに協力するようになってほしい
- 江別市と言えばコレ、というものを探す、あるいは作り出していく
- 市内小中学校の給食費の無料化など少子化対策
- 除排雪の強化
- 屋内体育施設の充実
- 江別駅周辺の活性化

- 大型ショッピングモールを江別駅周辺に誘致し、そこで江別の特産品 PR も行う
- 大学生や高校生の若い人が市外から集まるので、市内に住めるよう住環境を整える
- 市内外から就職のために人が集まるよう、大きな企業が必要
- お年寄りにも便利な公共交通
- 将来を担う高校生や大学生が横の繋がりをもって、行政へ意見を発信していく
- 興味を持っていない人に興味を持たせられるように、もっと情報発信力をつけることが必要
- 心の過疎化が進まないように、地域の交流を深めていくべき
- 江別駅のイメージを印象付けられるシンボルが必要

4 これからも江別市に住み続けますか

- 住み続けてもらうには、江別を好きになってもらうことが大事
- 子どもがもっとスポーツに打ち込める環境が整ったまちになればよい
- 今日の会議での意見が活かされて、江別が大きく変わればよい
- 京都のように伝統のあるまちになってほしいので、これから江別市の伝統をつくっていくのだという意識をもってもらいたい

5 その他

- レンガでできたレンガ工場を沢山つくり、働く場を確保して景観も良くする
- 作付面積・収穫量が北海道1位であるブロッコリーをもっと活用
- えべちングッズがもっと充実するとよい

えべつ未来大学生会議 意見概要

場 所：平成24年7月12日（木） 午後3時30分～午後6時00分

日 時：グレシャムアンテナショップ

出席者：北翔大学、札幌学院大学、北海道情報大学、酪農学園大学から
各2名ずつ 計8名

1 江別市の印象（どんなまちと感じているか）

① 江別の悪いところ、見直していく必要があるポイント

- 交通量が多く、交通事故をよく見かける
⇒ 歩行者のためのまちづくりが必要
- 高砂・江別方面に学生の関心が向いていないので、学生への情報発信が必要
⇒ 学生向けの情報発信の方法としては SNS（ツイッター・フェイスブックなど）の活用がよい
- 文京台地区にお店が少なく、車が無いと不便
- 街灯が少なくて暗い
- 江別の特徴が見当たらない
- 特産品はたくさんあるが、観光として見に来るものが少ない
- 文教都市でありながら市と大学等の連携が弱い
- 学生が自主的に活動できるスペースが少ない
- 江別駅周辺の過疎化
- 学生の遊べる場所が少ない
- 札幌市以外からの公共交通機関が不便
- 特産品のブランドイメージが弱く、市民でも知らないものがある
- 大麻近辺で線路を越す陸橋が少ない
- 線路が街中にあり、街が二分されている
- 冬場の歩道除雪
- 冬場のバスの遅れ
- 大学生同士が交流する機会が少ない
- 歩行者と自転車の道路を分離
⇒ 自転車のマナーが悪いので、マナー向上のために条例制定してはどうか
- 学生と地域住民との触れ合いの場が少ない
- JR 各駅付近にお店が少ない
- 本屋が少ない

② 江別の良いところ、今後が期待される江別のセールスポイント

- 野幌駅周辺の再開発による商店街や地元産業の活性化
- レンガを有効活用し、もっと対外的にアピール
- 大学同士の提携や大学と産業・企業との協力

- JRの駅がきれい
- Co.ラボのっぽをきっかけに学生とまちづくりが繋がりがつつある
※Co.ラボのっぽ・・・大学、学生、行政、野幌商店街が一体となって地域活性化に取り組むきっかけを作るため、地域の課題や将来像を共有し、学生が主役となって「まちのキカク」を検討・プレゼンする交流会を開催
- 市民の人柄が良い
- 顔づくり事業の流れに学生も参加できるプロジェクトを企画し、連携を強化
- えべチュンを活用して江別を宣伝
- JRの駅が多く、札幌へのアクセスが良い
- 12号線沿いは店が充実しており、日常的な買い物には不自由しない

2 学生の目線でのまちづくり

① 学生によるまちづくり

- 継続性のある活動をするため、4大学の学生で構成する学生団体を立ち上げ、その団体を窓口にして地域のイベントに参加
- 学生志向のまちづくりをするなら飲食店の充実が不可欠
- 福祉を重視したまちづくり（バリアフリー化・福祉関連施設・病院・公園など）
- 地域と高齢者との交流を増やす
- 江別の各駅に行くバス路線を充実させる
- まちの中に緑がある、環境に配慮したまちづくり
- 大学を利用して海外の人を受け入れて江別を国際化
- 環境への配慮を前面に押し出したまちづくりで市をPR
- 地域密着型ワークショップの開催により、地域と学生の繋がりを深める
- スマートフォンアプリによる江別市の観光ガイドゲームの開発（現在取組み中）
- 音楽によるまちづくり（現在取組み中）
⇒ 野幌商店街と連携し、ミュージシャンに演奏の場を提供して支援するとともに、音楽による商店街への集客・にぎわいの創出
- 4大学共同で年に1回地域住民も参加できる文化祭を実施
- 大学生が高齢者のために血圧測定をする場を設ける
- 4大学が連携し、学生が主体となって江別市開催イベントの企画・運営を行う
- 4大学それぞれの得意分野を活かした技術開発と、それを対外的にプロデュース・PRする仕組みづくり

3 どんなまちなら卒業しても住み続けたいか

① どんなまちにしたいか、まちの将来のビジョン

- 学生のときに立ち上げたまちづくり活動を卒業後も続けられる仕組みが必要
- 子どもが遊べる公園がたくさんあるまち
⇒ 遊具が充実していたり、球技ができる公園
- 高齢者が井戸端会議や趣味活動ができるちょっとした交流スペースがあるまち
- 市内または市近郊に就職先となる企業を誘致